

(様式3号)

学位論文の要旨

氏名 木下 奈津

〔題名〕

Echocardiographic features of acute-phase microscopic polyangiitis in Japanese patients: A single-centre retrospective study

(日本人の急性期顕微鏡的多発血管炎患者における心臓超音波検査での指標の特徴：単一施設後ろ向き研究)

〔要旨〕

背景：顕微鏡的多発血管炎(MPA)は全身臓器が障害される疾患である。しかしながら、MPA 患者における心臓超音波検査(心エコー)における指標の特徴については不明な点が多い。

目的：本研究は、単施設後ろ向き研究で、ステロイド療法の新規導入または再導入後2週間以内に心エコーを行った MPA 患者 15 名を対象とし、その心エコー所見の特徴について検討することを研究の目的とした。30 人の年齢・性別をマッチさせた心疾患のないコントロール群と比較検討した。

方法と結果：左室径、左室駆出率、拡張早期僧帽弁輪最大移動速度(e')に2群間で有意差は認めなかった。一方、MPA 群では左房径、左房容積係数が有意に高く、左室流入血流速波形(TMf)の早期拡張期充満速度(E 波)と肺静脈流入血流速度(D 波)の高さ、三尖弁における収縮期右室-右房最大圧較差も有意に高く、TMf の E 波の減速時間(DCT)は短縮していた。血清 CRP は TMf の E 波高、E/A 比および DCT と相関が見られた。今回の研究では、MPA 患者における e' の有意な低下がみられなかったことから、左室弛緩能の低下よりはむしろ左室ステイフネスの上昇によって左室拡張能低下が生じ、結果として左房拡大が生じている可能性が示唆された。

結語：急性期 MPA 患者では左室拡張能低下によると考えられる左房拡大を生じていた。MPA 患者、特に強い炎症反応を伴う患者では、心機能評価を行うことが重要であることが示唆された。

作成要領

1. 要旨は、800字以内で、1枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること。

学位論文審査の結果の要旨

令和4年2月24日

報告番号	甲 第 1633 号	氏 名	木下 奈津
論文審査担当者	主査教授	濱野 公一	
	副査教授	白澤 文吾	
	副査教授	矢野 雅文	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Echocardiographic features of acute-phase microscopic polyangiitis in Japanese patients: A single-centre retrospective study (日本人の急性期顕微鏡的多発血管炎患者における心臓超音波検査での指標の特徴：単一施設後ろ向き研究)			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Echocardiographic features of acute-phase microscopic polyangiitis in Japanese patients: A single-centre retrospective study (日本人の急性期顕微鏡的多発血管炎患者における心臓超音波検査での指標の特徴：単一施設後ろ向き研究) 掲載雑誌名 Modern Rheumatology. 2021,in press. doi: 10.1093/mr/roab028			
(論文審査の要旨)			
背景：顕微鏡的多発血管炎(MPA)は全身臓器が障害される疾患である。しかしながら、MPA患者における心臓超音波検査(心エコー図検査)における指標の特徴については不明な点が多い。			
目的：本研究は、単施設後ろ向き研究で、ステロイド療法の新規導入または再導入後2週間以内に心エコーを行ったMPA患者15名を対象とし、その心エコー所見の特徴について検討することを研究の目的とした。30人の年齢・性別をマッチさせた心疾患のないコントロール群と比較検討した。			
方法と結果：左室径、左室駆出率、拡張早期僧帽弁輪最大移動速度(e')に2群間で有意差は認めなかった。一方、MPA群では左房径、左房容積係数が有意に高く、左室流入血流速波形(TMf)の早期拡張期充満速度(E波)と肺静脈流入拡張期血流速度(D波)の高さ、三尖弁における収縮期右室-右房最大圧較差も有意に高く、TMfのE波の減速時間(DCT)は短縮していた。血清CRPはTMfのE波高、E/A比およびDCTと相関が見られた。今回の研究では、MPA患者におけるe'の有意な低下がみられなかったことから、左室弛緩能の低下よりはむしろ左室スティフネスの上昇によって左室拡張機能低下が生じ、結果として左房拡大が生じている可能性が示唆された。			
結語：急性期MPA患者では左室拡張機能低下によると考えられる左房拡大を生じていた。MPA患者、特に強い炎症反応を伴う患者では、心機能評価を行うことが重要であることが示唆された。			
本論文は、日本人の急性期顕微鏡的多発血管炎患者における心臓超音波検査での指標の特徴について詳細に検討したものであり、学位論文として価値あるものと認めた。			